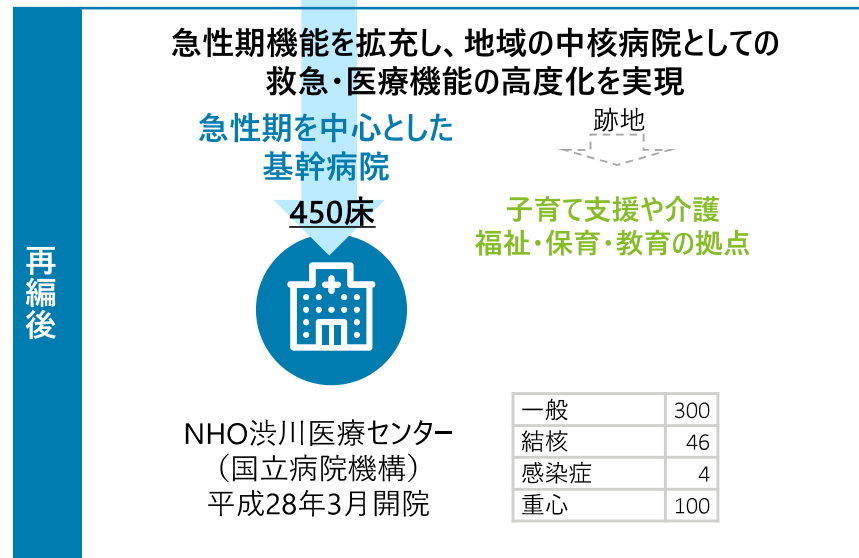
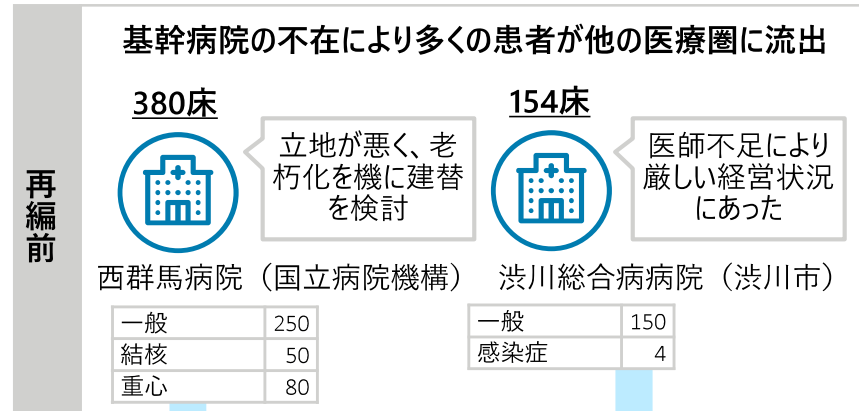






2病院の再編により、地域の中核病院としての医療の高度化を実現

再編の概要



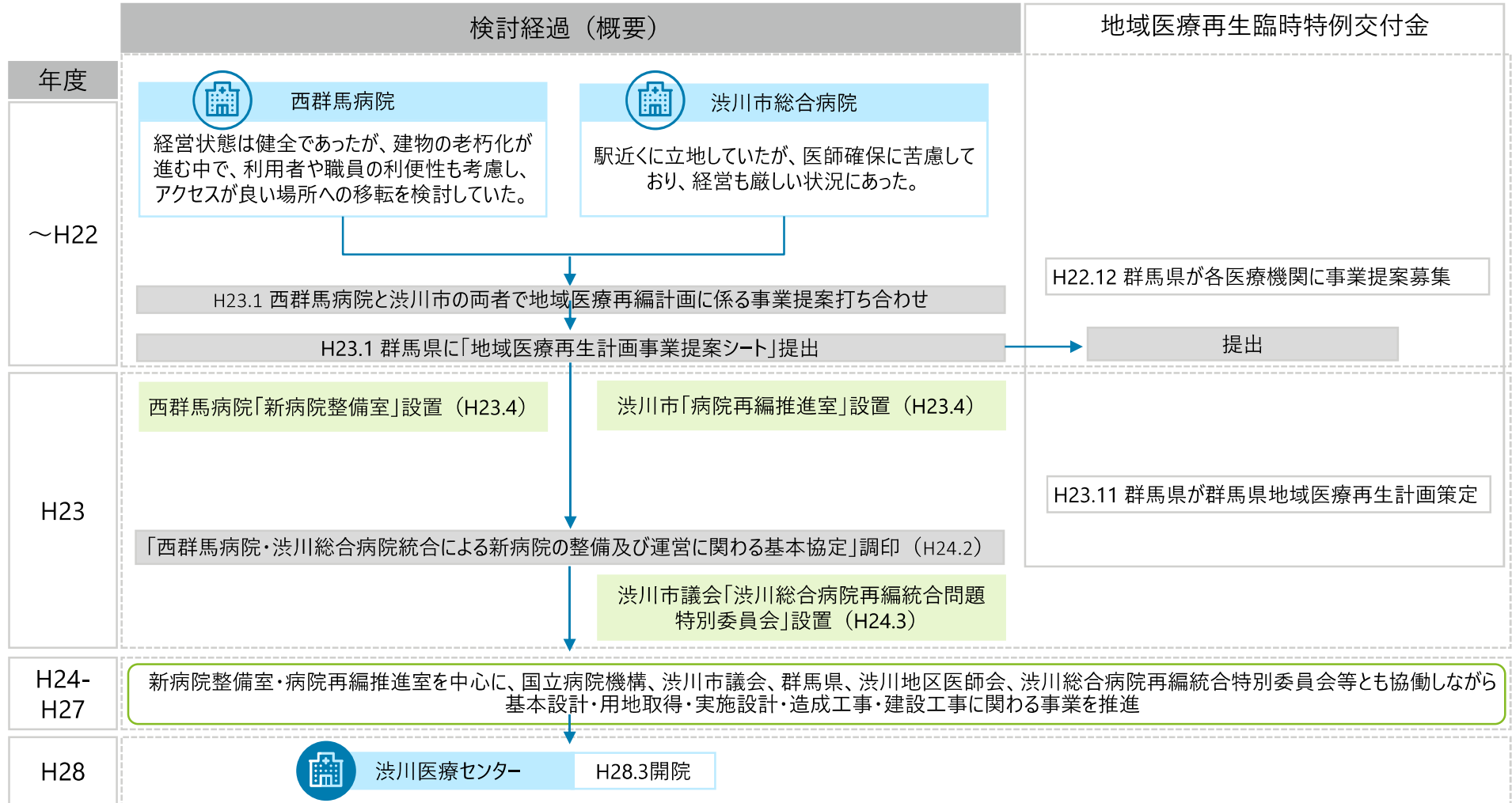
再編による変化

		再編前 (H27年度)		再編後 (R2年度)	
	病床数	①	380床	450床	
		②	154床		
		合計	534床		
	医師数	①	27名	再編後	
		②	12名		57名
		合計	39名		9名
		非常勤医師数 (常勤換算数)	0.6名		0名
	救急搬送 件数	①	243件	1,084件	
		②	319件		
		合計	562件		
	1日平均 入院患者数	①	242名	313名	
		②	40名		
		合計	282名		

※ 再編前：西群馬病院・渋川総合病院の実績合計
再編後：NHO渋川医療センターの実績

再編に向けた検討の流れ

検討経過（概要）



出所：独立行政法人国立病院機構西群馬「ウイズ No.69」、市議会だより、国立病院機構渋川医療センター提供資料

6 再編後の運用的な課題

再編の効果

- 定量的な効果（西群馬病院・渋川総合病院の合計（H27年度）と渋川医療センター（H28年度）の比較）
 - ・ 新病院の院長が医師の派遣元である群馬大学に積極的に働きかけ、医師数を確保することで診療科を拡充した。旧2病院合計と比較すると、診療科が**14診療科**から**27診療科**に拡充された。
 - ・ 北毛地域（渋川保健医療圏・吾妻保健医療圏・沼田保健医療圏）の基幹病院としての役割を新病院が担い、北毛地域からの紹介患者数は旧2病院合計と比較して**約1.9倍**に増加した。患者数の増加により、年間の手術件数は**約2.2倍**に増加した。
- その他の効果
 - ・ 看護師不足の病院も多い中、**募集人数の3倍**ほどの看護師の応募があり、十分な人材確保が出来る状況となっている。
 - ・ 西群馬病院と渋川総合病院とで分かれていた機能が一つになることで**開業医からの紹介もスムーズになり、登録医も増加**した。



出所：渋川医療センター公的医療機関等2025プラン、国立病院機構渋川医療センター提供資料、国立病院機構渋川医療センターへのヒアリング

国立病院機構渋川医療センター (ヒアリング先：国立病院機構渋川医療センター)

【ポイント】

- ・ 渋川医療センターの院長（当時：西群馬病院長）が県の医師確保対策室長や事務部長も巻き込んで群馬大学に働きかけを行った。時間をかけて大学側とコミュニケーションを取り、積極的に医師確保を行うことで診療科を拡充することが出来、対応患者数の増加につながった。
- ・ 統合により医師の派遣元である群馬大学から近い立地となったことも、医師確保の観点でプラスに働いた。
- ・ 基幹病院が無い地域であり、渋川医療センターは新たな役割を果たす病院であったため、新病院の設置について周辺病院から大きな懸念の声は上がらず、医師会からも賛成を得られた。
- ・ 新しい病院であることに加え、重症心身障害医療や、緩和ケア等特色のある医療を提供する病院であることが、人材を惹きつける要因ともなっている。

令和3年度末時点の課題

- 既存スペースの狭隘
 - ・ 患者の確保が出来ている一方、外来ブースが手狭となっているため、各診療科と調整し午後外来を検討している。
 - ・ 患者・職員合わせて約700台分の駐車場を確保しているが、スペース不足のため近隣に職員駐車場を借用している。
- 救急車の受療率
 - ・ 現在救急車の受療率が約80%であり、更に受療率を高くすることを目指している。